



病院NEWS

no. 389
2016
11/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

本院の再開発整備の進捗状況について

病院再開発推進室

香川大学医学部附属病院では、災害拠点病院としての施設の充実・強化、病棟・外来における患者さんの療養環境の向上、最新の高度医療を提供するための基盤強化などを目的として、平成23年度から8年計画で病院再開発整備事業を進めております。これまでに整備された主な内容といたしましては、平成26年3月の南病棟の新築完成、平成27年10月の手術棟の新築完成、平成28年2月の東病棟改修完成などがあります。これらの整備によりまして、旧棟に比較し、入院患者さんの居住性や快適性が著しく向上、ロボット手術やハイブリッド手術を初めとする高度な手術の遂行環境が著明に改善いたしました。現在、西病棟と中央診療棟の改修工事が進められておりますが、本年11月からはさらに外来診療棟の改修工事も開始されます。これらの既存建物の改修工事は、改修計画により区分されたエリア毎に進められており、整備完成したエリアの部門から順次新規稼働して参ります。再開発整備事業完成予定は平成31年3月となっております。

既存建物での改修工事では、診療を継続しながらの作業となっておりますので、騒音・振動の発生など、ご来院の皆様には大変なご不便、ご迷惑をおかけいたします。本院がよりよい医療を提供するための産みの苦しみということで、皆様方には何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



▲南病棟(平成26年3月新築完成)



▲手術棟(平成27年10月新築完成)



▲東病棟(平成28年2月改修完成)



▲改修された東西病棟EVホール1階



▲現在改修中の西病棟(平成29年10月完成予定)



▲病院再開発整備年次計画配置図

▼病院再開発整備年次計画

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
① 南病棟(南病棟) 新築	[完成]							
② 手術棟 新築				[完成]				
③ 東病棟 西病棟 改修					[完成]			
④ 中央診療棟 改修						[現在]		
⑤ 外来診療棟 改修							[現在]	
⑥ 自家発電機棟 新築			[完成]					
⑦ ヘルポート 新築			[完成]					

声がかすれる原因はいろいろあります。声帯炎や声の使いすぎによるポリープや結節（声帯にできたタコのようなもの）、喉頭癌によるものもありますが、今回は声帯麻痺によるかすれを取りあげたいと思います。

声帯は反回神経によって動きが調整されており見た目はV字型をしています。発声時には閉まり呼吸時には開く仕組みになっていますが、反回神経をいためた場合には声帯が動かなくなり、声を出す時に隙間があいてしまうために肺から出る空気が漏れて息漏れ声になります。原因としては反回神経の通り道の異常、すなわち腫瘍（食道癌、肺癌、甲状腺癌など）や胸部大動脈瘤があります。声のかすれで受診したことをきっかけにこれらの疾患が診断されることも多々あります。また神経周囲の手術操作によって反回神経がダメージをうける場合もあり、手術時に神経を切断された場合や発症から半年以上経過している場合には、麻痺の自然回復は困難です。しかし声帯麻痺による声のかすれには治療法があります。声帯がどの位置で動かないか、どの程度痩せているか（萎縮）にもよりますが、音声訓練や外科的治療（声帯内注入術・喉頭枠組み手術）を行うことで改善させることができます。声帯内注入術には、外来でできるコラーゲン注入術、入院加療で行う脂肪注入術（自家脂肪を注入）が、また喉頭枠組み手術は局所麻酔下で実際に声をだしてもらいながら手術中に声の調整をします。

声帯麻痺では息漏れ声となる以外に、水でむせるといった症状をきたすことも多く、治療によって改善が期待できます。過去に声帯が動いてないといわれたけれど治療方法もないといわれ経過観察されている方はいませんか。大きな病気の治療に伴う後遺症でなったのだから、声が犠牲になってもしかたないとあきらめている方はいませんか？

音声改善手術を行っている施設は限られていますが、一度耳鼻咽喉科に相談にきてください。

毎日新聞 「四国健康ナビ」H28.9.6掲載

防災訓練の実施報告について

管理課

平成28年度の医学部地区防災訓練を、10月4日（火）に高松市三木消防署のご協力のもと実施しました。当日は、台風が接近し開催が危ぶまれましたが、雨が降ること無く、教職員と学生を合わせて約590名が参加し、有意義な訓練を行うことができました。



訓練は四部構成として、「学生の避難訓練」、「病棟火災を想定した避難誘導訓練」、「消火器操作訓練及び起震車・煙体験」「災害拠点病院として大規模災害における防災訓練（災害対策本部設置訓練、トリアージ訓練）」を行い、防災に対する意識の高揚を図り、「チーム医学部」として安全性の向上と地域防災医療の質的向上を目指して実施しました。

今回の訓練結果を踏まえ、「if ~ we can!」どんな時でも対応できるよう「防災力の強化」に努めたいと思います。



病棟火災避難誘導訓練



起震車体験



災害対策本部設置訓練



トリアージ訓練

近年、糖尿病を含めた生活習慣病が増加の一途となっています。香川県においては、糖尿病受療率（人口10万人あたりの医療機関受診者数）が全国第2位であり、有病率の高さを指摘されています。香川県は平成23年から『うどん県』をアピールしてきましたが、食習慣の偏りが糖尿病発症に大きく影響しているのかもしれません。平成24年から香川県全域で行なわれている小児生活習慣病予防健診の結果では、小学生4年生の10%に何らかの生活習慣病が認められるとしています。小児期よりの食育を含めた生活指導が今後必要と思われます。糖尿病はインスリンの作用不足による慢性の高血糖状態を主徴とする代謝疾患群と定義されています。免疫学的機序に起因する1型糖尿病と生活習慣に起因する2型糖尿病に大きく分類されます。糖尿病は、比較的簡単に血液検査にて診断されます。糖尿病は血糖値が高いだけではなく、放置していると様々な合併症を伴います。まさに人は血管から老いと言われるそうですが、糖尿病では全身の血管が侵され、多臓器に病変が及ぶこととなります。そのための治療としては、血糖をコントロールする治療が重要とされています。治療の第一歩は、食事療法があげられます。食事療法は終生続くものなので、十分に指導することが難しいものです。香川大学医学部附属病院内分泌代謝内科では、臨床栄養部のご協力をいただき『食事カメラ』の開発を行っています(図2)。スマートフォンを利用して、毎日毎食の食事指導を行う全国初の食事指導です。この『食事カメラ』を導入してから、血糖管理、体重管理に難渋していた糖尿病患者さんの血糖値、体重がみるみる低下しています。一方、糖尿病治療薬は日進月歩の状態であり、従来までのインスリン治療、薬物治療に加えて、新たにインクレチン療法、SGLT2阻害薬などの新規の治療が次々と導入されています。これら薬物療法だけでなく、多職種連携を基盤としたチーム医療が香川大学糖尿病センターの特徴です。例えば糖尿病第6の合併症である歯周病に対して、医科—歯科連携を構築し、共同して診療を行っています。また糖尿病の重症化予防の取り組みとして、透析導入抑制に向けた多職種による診療連携をおこない、糖尿病腎症の悪化防止に努めています。また香川大学の新たな取り組みとして医療ICTを駆使した電子糖尿病手帳、糖尿病疾病管理マップの開発・導入を行っています(図1)。

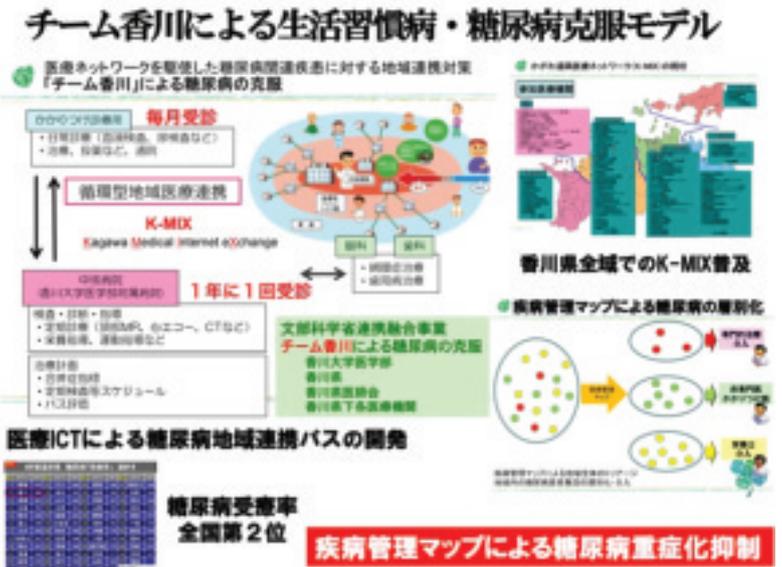


図1

電子糖尿病手帳、糖尿病疾病管理マップの開発・導入を行っています(図1)。電子データを活用して、合併症の早期発見・重症化予防を行うシステムの臨床応用です。島が多く公共交通機関が十分でない香川県ですが、地方こそが最新の遠隔医療の活躍の場と考えています。さらには、香川大学が開発してきた希少糖の臨床試験を通じて、希少糖を糖尿病患者さんに有効に利用していただきようデータ蓄積を行っています。

食事カメラを利用した栄養指導



図2

私共、内分泌代謝内科(糖尿病センター)は、多職種連携を基盤として、糖尿病患者さんと共に歩む医療を目指しています。

※第4回イキイキさぬき健康塾(平成27年5月24日開催)の講演内容を要約したものです。

IVRスクール開催

放射線診断科 助教 佐野村 隆行



県下の中学生を対象とした「IVRスクール」が、8月11日に初めて開催されました。これは血管モデルやカテーテル、ガイドワイヤーなどを用いて参加中学生にハンズオン形式で実際に触れてもらい、興味をもっていただくという趣旨のイベントです。IVR(アイ・ヴィ・アール)とはInterventional Radiology(インターベンショナル・ラジオロジー)の略で、日本語では画像下治療と訳されます。主にX線透視画像を見ながらカテーテルを目的とする血管内に誘導し治療を行う手技を指します。

当日は25名という多くの中学生が参加し、医学部内にあるスキルスラボというさまざまな医療用シミュレーターが置かれている施設にて行われました。まずスライドを用いIVRおよび実習内容の説明をしたのち4班に分かれ①血管モデルを用いたカテーテルによる腹部血管選択および動脈瘤のコイル塞栓、②下大静脈フィルターの留置および回収、③超音波装置による人体モデル用いた臓器の描出体験およびかんでんに埋まっている標的病変の穿刺、④血管撮影室の見学およびプロテクター・術衣の着用体験、をそれぞれ行いました。その後サンドイッチを食べながら放射線医学に関する講演を聴くランチオンセミナーを行い終了しました。

参加者からは「将来の進路決定の参考になりました」などとてもうれしい感想が多く寄せられました。最後になりましたが、多大なるご協力を頂きました各先生方、放射線技師、事務スタッフの皆様にご心より御礼申し上げます。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに對して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H28.11~12月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
11/5 11/6	土 日 14:30~17:30 9:00~17:00	香川県社会福祉総合センター	公益社団法人 日本口腔インプラント学会 第36回中国・四国支部学術大会	歯科口腔外科学講座	(087)891-2227
11/16	水 14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	腎臓病教室	臨床栄養部	(087)891-2066
11/17 11/24 12/8 12/22	木 14:00~15:30	臨床栄養部 研修室	糖尿病教室	臨床栄養部	(087)891-2066
11/17	木 14:00~16:00	病院2階 カンファレンスルーム	がん患者サロン	がん相談支援センター	(087)891-2473
11/20	日 11:00~12:00	丸亀町レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町香番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新治療- 「子宮内腺症について 月経痛から閉経後まで」	総務課	(087)891-2008
11/24	木 14:00~15:30	病院2階 カンファレンスルーム	平成28年度 第3回 肝臓病教室 ~肝栄養療法とは~	地域連携室	(087)891-2468
12/11	日 11:00~12:00	丸亀町レッツホール高松市丸亀町1番地1 高松丸亀町香番街東館4階	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新治療- 「芸能人から学ぶ、のど(咽喉頭)のがんへの対処法 ~声を失わないために必要なことは?~」	総務課	(087)891-2008

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、石井(外来)、小野(総務)、笹川(放射線)、白神(麻酔)、田川(管理)、田中(看護)、中妻(看護)、芳地(薬剤)、村上(病棟)、横井(情報)、横山(経営)、吉野(医事)〔委員長 横見瀬病院長〕